**第41回霧島市環境対策審議会　会議要旨**

１　日　時

平成29年12月26日（火）　14：30～16：25

２　場　所

霧島市国分シビックセンター　行政棟３階　庁議室

３　出席者

　委　員：平田登基男，石窪奈穂美，辻由紀子，浜本奈鼓，福園ゆかり，田中セツ子

湯之原義弘，窪田悦子，徳永昭男，坂本謙太郎，前之園達朗，木佐木宏一

事務局：中重市長，久保部長，出口課長，中馬課長，宝徳G長，赤塚G長，山本G長

　　　川畑主査，若松主任主事，浅野良典課長補佐（中外テクノス）

４　議　題

・霧島市環境基本計画の見直しについて

・第二次霧島市環境基本計画の素案について

５　議事要旨

「霧島市環境基本計画の見直しについて」，「第二次霧島市環境基本計画の素案について」は以下のとおり。

・資料２の10Ｐの指標「１～15年生の森林面積」は現状値から目標値まで約２倍増やすとなっているが，この面積は国有林・市有林・民有林を併せたものか，及び天然・人工林のどちらであるか。

また，18Ｐの施策「低炭素なまちづくり」に同じ指標が出てくるが，街路樹や公園の緑地面積も含まなければならず，森林面積ではある程度の規模が必要である。10Ｐにあるように，今後も植林が計画されていれば可能だが，国（九州森林管理部）では霧島市（姶良方面）では５年間の計画の中で大きな計画はない。この大きな目標が達成されるのか。

　⇒人工林と認識するが，面積の内訳と併せ担当課へ確認し回答する。

目標値は計画最終年度における数値であり誤記載である。685.3haから485.0haへ訂正をお願いする。

・資料２の12Ｐの指標で「クロツラヘラサギ」や「ノカイドウ」等の固有種を目標値にするのは非常に危ないことである。ノカイドウは特に保護林区内に有り，鹿の食害により減少しており増やす取組を行っているが，ノカイドウやクロツラヘラサギの数が増えるということだけで，「生き物と暮らすまち」を達成できるかというとそんな簡単な話ではない。固有種ではなくもっと広く一般的に視た，例えば，河川や森林の生態系に関することをきちんと認識し市民が活動できるかという目標に変えたほうが具体的である。

⇒再度検討する。

・資料２の15Ｐに環境省が言うエコツアーの記載があるが，14Ｐの指標にはジオツアーしか出てこない。今後，国立公園もあることからエコツアーは沢山始まると思うので，エコツアーの数値も加えるべきではないか。

　⇒観光課がエコツアーに取組んでいる。併せた数値を設定できないか検討する。

・資料２の２Ｐ，５行目は「環境の保全と創造」，８行目は「環境の保全と形成」，３Ｐの１行目は「環境の保全と創出」と記述がある。４Ｐの霧島市環境基本条例では，「環境の保全と形成」となっている。意図的に創造・形成・創出と記述し分けているのか。

解り難いと思う。

　⇒使い分けたものではない。統一する又は解かり易い文言を検討する。

※「創造」と記載するほうが一般的だが，条例で「形成」を用いているので合せたほうが良い。

・資料１の９Ｐ，表２-５の基本施策「自然とのふれあい」で，該当事業や主担当課無しとなっている。自然とのふれあいは非常に大事で，自然環境の保全という観点から事業は実施して頂きたい。

⇒広域的な協議会等でも自然とふれあう事業等は行っており，市の事業として把握できないことや，「環境を考える」と「自然とのふれあい」とが一括りになっているためではないかと考える。

・資料２の22Ｐ，「ごみ収集所の違反ごみ件数」は目標値が14,500件とあるが，その数までは容認するのか。目標値としては厳しくしたほうが良い。

また，20Ｐの「１人１日あたりのごみの排出量」についても，967ｇ（Ｈ27年度）から927ｇ（Ｈ28年度）と減少しているのに，目標値が現行計画の900ｇより多い908ｇとしたのはなぜか。数字的なものは考え直してほしい。後日，FAX等で問い合わせる。

⇒個別の専門分野における意見があれば，是非お寄せ頂き，全体で共有させて頂きたい。

・資料２の16，17Ｐについて，現状と課題があるが，今の課題・将来の課題があり，今後10年に向けた見直しということであるので，霧島市では再生可能エネルギー（太陽光・地熱）が今後増えると思うが，推進と共に乱開発や自然環境との共生という大きな課題があるのに何も触れていない（課題に再生可能エネルギーを追記したほうが良い）。その為， 例えば17Ｐ「事業者の取組み」で「周辺環境に配慮しましょう」とかそういう言い回しでは駄目なところが幾つかある。資料中に「法律を遵守し，～設計を検討し（努め）ましょう」といった記載があったが，「～しましょう」で良い場合とそうでない場合の言葉尻を変えたほうが良い。

また，32Ｐで環境学習に取組むのは良いが，学習の中にエネルギー問題を学ぶ機会を取入れるべきと思う。現状と課題の中で自然のことを学ぶと共にエネルギー問題も記載したほうが良いのでないか。環境部局だけの話ではないと思うが，市民が学ぶ上では両方入っていたほうが良いのではないか。

⇒指摘箇所について記載を検討する。

・他に意見はないようだが（次回の２月末が答申とスケジュール的にタイトである）皆さんには持ち帰って頂き，意見・質問があればＦＡＸやメール等で事務局に提出頂いて，立派な第二次計画をつくりたい。

⇒以前も時間的に不足する場合，皆様から書面で意見を頂いたことがある。

事務局で所定様式を作成し送付するので，メールやＦＡＸ等でご提出頂きたい。